

## REPORT

## 第4回 日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会を終えて

宮崎大学医学部看護学科臨床薬理学

柳田 俊彦

会期：2019年7月6日（土） 10:00~17:00

会場：宮崎観光ホテル（宮崎市）

会長：柳田 俊彦（宮崎大学医学部看護学科臨床薬理学）

テーマ：多職種で切り開く薬物療法の新展開

## 1. 開催概要

第4回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会は、メインテーマを「多職種で切り開く薬物療法の新展開」とし、2019年7月6日（土）に宮崎観光ホテルにおいて開催した（Photo. 1）。

日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会は、前回の長崎大学での「第3回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会」に続き、今回で4回目の開催であった。今回の宮崎大会では、医師、薬剤師、看護師、医学・薬学・農学の教育・研究者など、総計で117名の多職種の方々にご参加いただいた。内容としては、特別講演、シンポジウム、一般演題（7演題）、ランチョンセミナーなどを企画し、活発な討議が展開された。プログラムの構成にあたっては、特に、「若手・次世代」と「多職種」をキーワードとして、「基礎研究から臨床研究まで」幅広い内容となるよう工夫した（Table 1, 2）。



Photo. 1 第4回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会 大会長挨拶

終了後には、懇親会（情報交換会）を開催した。和やかな雰囲気の中で、参加者相互の交流が深められた。

## 2. 特別講演

特別講演として甲斐広文先生（熊本大学大学院生命科学 研究部）にお越しいただき、「Physical Medicine の臨床薬理学 —新たな予防・治療アプローチ—」として、物理的な刺

Table 1 日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会 世話人

	氏名	所属
支部長	笹栗 俊之	九州大学大学院医学研究院 臨床薬理学分野
幹事	家入 一郎	九州大学大学院薬学研究院 薬物動態学分野
世話人	池田 龍二	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部
	伊東 弘樹	大分大学医学部附属病院 薬剤部
	岩本 隆宏	福岡大学医学部 薬理学教室
	植田 真一郎	琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学講座
	上村 尚人	大分大学医学部 臨床薬理学講座
	木村 晋也	佐賀大学医学部 内科学講座
	武田 泰生	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 薬物動態制御学分野
	武谷 立	宮崎大学医学部 機能制御学講座 薬理学分野
	立石 正登	長崎国際大学薬学部 臨床薬剤学研究室
	筒井 正人	琉球大学大学院医学研究科 薬理学講座
	中村 克徳	琉球大学医学部附属病院 薬剤部
	西 昭徳	久留米大学医学部 薬理学講座
	野出 孝一	佐賀大学医学部 内科学講座
	増田 智先	九州大学病院 薬剤部
	丸山 徹	熊本大学薬学部 製剤学分野
	宮田 篤郎	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 生体情報薬理学
	柳田 俊彦	宮崎大学医学部 看護学科臨床薬理学
	山本 弘史	長崎大学病院 臨床研究センター

著者連絡先：柳田俊彦 宮崎大学医学部看護学科臨床薬理学 〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200

E-mail：yanagita@med.miyazaki-u.ac.jp

投稿受付 2019年9月19日、掲載決定 2019年10月15日

ISSN 0388-1601 Copyright：©2019 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table 2 プログラム

<p>&lt;開会挨拶&gt;            大会長 柳田 俊彦 (宮崎大学医学部看護学科 臨床薬理学)</p> <p>&lt;一般演題&gt;            座長 筒井 正人 (琉球大学大学院医学研究科 薬理学講座)            平原 康寿 (宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)</p> <p>① 「心不全治療を目指した心筋アクチン制御機構の解析」            實松 史幸 (宮崎大学医学部 薬理学分野)</p> <p>② 「複合性局所疼痛症候群に対する TNF-<math>\alpha</math> 中和抗体局所投与の治療応用への可能性」            田頭 秀章 (福岡大学医学部)</p> <p>③ 「末期腎不全患者における移植後アルブミン翻訳後修飾体の変動評価」            田中 遼大 (大分大学医学部附属病院 薬剤部)</p> <p>④ 「Determination of higenamine in Kampo medicines using high performance liquid chromatography and liquid chromatography-tandem mass spectrometry」            Jose Carlos S. Tayag (琉球大学大学院医学研究科)</p> <p>⑤ 「副甲状腺ホルモン関連蛋白質は癌病態において CYP3A 発現を抑制する」            松坂 幸太朗 (熊本大学大学院薬理学分野)</p> <p>⑥ 「緑茶カテキン EGCg (Epigallocatechin gallate) の体内動態に影響するトランスポーターの新規スクリーニング法の開発」            園田 純一郎 (九州保健福祉大学薬学部)</p> <p>⑦ 「長崎大学病院臨床研究センターにおける特定臨床研究の事前面談体制について」            中島 佐和子 (長崎大学病院 臨床研究センター)</p> <p>&lt;ランチョンセミナー&gt;            座長 池田 龍二 (宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)            「高齢者の精神症状への対応～不眠・不安・疼痛～」            演者 石田 康 (宮崎大学医学部臨床神経科学講座            精神医学分野)</p>	<p>&lt;特別講演&gt;            座長 柳田 俊彦 (宮崎大学医学部看護学科 臨床薬理学)            「Physical Medicine の臨床薬理学—新たな予防・治療アプローチ—」            演者 甲斐 広文 (熊本大学大学院生命科学研究所 (薬学系))</p> <p>&lt;シンポジウム&gt;            「次世代を担う若手臨床薬理学シンポジウム」            座長 武田 泰生 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 薬物動態制御学分野)            笹栗 俊之 (九州大学大学院医学研究院 臨床薬理学分野)</p> <p>① 「腫瘍溶解性ウイルスを使用した第 I 相医師主導治験における院内実施体制の構築」            二川 俊隆 (鹿児島大学病院 臨床研究管理センター 治験管理部門)</p> <p>② 「大分大学医学部における健康成人を対象とした分子標的薬の生物学的同等性試験実施体制の構築」            大谷 直由 (大分大学医学部 臨床薬理学講座)</p> <p>③ 「臨床エビデンス・創薬基盤技術に立脚したアミロイドーシスの新規医薬品開発」            城野 博史 (熊本大学病院 薬剤部)</p> <p>④ 「精神医療における生物・心理・社会的アプローチの中で看護がどう貢献できるか：臨床試験のエビデンスに基づいて」            吉永 尚紀 (宮崎大学 テニュトラック推進機構)</p> <p>⑤ 「過去～現在の臨床研究の取り組みとこれからの臨床薬理学との関わりについて」            吉原 達也 (医療法人相生会福岡みらい病院 臨床研究センター)</p> <p>&lt;次回大会案内&gt;            武田 泰生 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 薬物動態制御学分野)</p> <p>&lt;閉会挨拶&gt;            大会長 柳田 俊彦 (宮崎大学医学部看護学科 臨床薬理学)</p>
--	--

激を最適化し医療現場に応用できる可能性がある Physical Medicine について最新の情報を幅広くご講演いただいた (Photo. 2)。これまで甲斐先生のグループは、細胞ならびに動物を用いて物理的的刺激条件の最適化を行い、新しい生体応答刺激条件を見出してきた。その刺激を糖代謝異常に対する新たな予防法および治療法として、臨床試験を実施し、その有効性について明らかにした。本特別講演では、これまで、Chemical Medicine を中心に展開していた甲斐先生のグループが、Physical Medicine に対する生活習慣病などの多因子性の慢性疾患の予防あるいは治療に有用である可能性について、さらに、メタボリックシンドローム対象者および肥満 2 型糖尿病患者を対象に、12 週間毎のクロスオーバー臨床試験を実施し、その結果、あるタイプの抗糖尿病薬を併用している患者において、HbA1c 値低下効果がより明確であったことを示し、Physical Medicine の糖代謝異常症に対する有効性について活発な討議が展開された。

### 3. シンポジウム

シンポジウムでは、テーマを「次世代を担う若手臨床薬理学シンポジウム」とし、5 名の若手研究者 (医師 2 名、薬剤師 2 名、看護師 1 名) にご発表いただいた。

二川俊隆先生 (鹿児島大学病院臨床研究管理センター治験管理部門) に「腫瘍溶解性ウイルスを使用した第 I 相医師主導治験における院内実施体制の構築」について、大谷直由先生 (大分大学医学部臨床薬理学講座) に「大分大学医学部における健康成人を対象とした分子標的薬の生物学的同等性試験実施体制の構築」について、城野博史先生 (熊本大学病院薬剤部) に「臨床エビデンス・創薬基盤技術に立脚したアミロイドーシスの新規医薬品開発」について、吉永尚紀先生 (宮崎大学テニュトラック推進機構 (看護系)) に「精神医療における生物・心理・社会的アプローチの中で看護がどう貢献できるか：臨床試験のエビデンスに基づいて」について、吉原達也先生 (医療法人相生会福岡みらい病院臨床研究センター) に「過去～現在の臨床研究の取り組みとこれからの臨床薬理学との関わりについて



Photo. 2 甲斐広文先生（熊本大学大学院生命科学研究部）による特別講演



Photo. 3 会場内風景

て」ご発表いただき医療を取り巻く種々の問題を議論し、知識の交流を深めることができた (Photo. 3)。

#### 4. ランチョンセミナー

ランチョンセミナーでは、宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野の石田康先生に「高齢者の精神症状への対応 ～不眠・不安・疼痛～」についてご講演いただき不眠・疼痛の原因や治療薬について、豊富な臨床経験に基づいた興味深い知見をご紹介いただいた。

#### 5. 一般演題

一般演題では、實松史幸先生（宮崎大学医学部薬理学分野）に「心不全治療を目指した心筋アクチン制御機構の解析」について、田頭秀章先生（福岡大学医学部）に「複合性局所疼痛症候群に対する TNF- $\alpha$  中和抗体局所投与の治療応用への可能性」について、田中遼大先生（大分大学医学部附属病院薬剤部）に「末期腎不全患者における移植後アルブミン翻訳後修飾体の変動評価」について、Jose Carlos S. Tayag 先生（琉球大学大学院医学研究科）に「Determination of higenamine in Kampo medicines using high performance liquid chromatography and liquid chromatography-tandem mass spectrometry」について、松坂幸太郎先生（熊本大学大学院薬剤学分野）に「副甲状腺ホルモン関連蛋白質は癌病態において CYP3A 発現を抑制する」について、園田純一郎先生（九州保健福祉大学薬学部）に「緑茶カテキン EGCg (Epigallocatechin gallate) の体内動態に影響するトランスポーターの新規スクリーニング法の開発」について、中島佐和子先生（長崎大学病院臨床研究センター）に「長崎大

学病院臨床研究センターにおける特定臨床研究の事前面談体制について」ご発表いただき、より良い医療やこれからの展望について話し合いの場が持たれ、有意義な時間となった。また、厳選な審査の結果、一般演題の発表者の中から1名に最優秀発表賞を3名に優秀発表賞が授与された。

#### 6. おわりに

日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会は、臨床試験を適正に行える教育・研修を行うとともに、薬物治療の向上、臨床研究の促進を図り、広く社会に対する啓発を行うことを目的として実施している。前回の長崎大学での「第3回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会」に続き、今回で4回目の開催であった。近年、科学の進歩に伴い、標的とする分子を同定する基礎研究に加え、その機能を制御する分子標的薬が臨床現場で広く使用され、その有効性が明らかになりますますます期待されている。今回の日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会においても、医学・薬学・看護学を取り巻くさまざまな分野から研究者が集まり、医薬品の新たな機能や臨床における課題について議論し、基礎研究から臨床研究まで将来の科学の発展を担う研究者の貴重な交流の場となったと考えている。

最後に、本大会の開催に際し、素晴らしいご講演をご提供いただきました演者の皆様、座長の皆様、共催いただきました各企業の皆様、そして大会運営を支えていただきましたスタッフの皆様、特に全面的なサポートをいただきました宮崎大学医学部附属病院薬剤部の皆様に心から感謝申し上げます。